



実施状況

| | 小学校 | 中学校 |
|--------|--|--|
| 実施時期 | 6月第2週～7月第3週 | 6月第2週～9月中旬が多数 |
| 回数 | 各学年週3回予定 2時間続きの授業設定の学校も有 10回程度の実施 | 各学年週3回予定 10回程度の実施 |
| 授業実施形態 | 基本的に学年ごと 最大150名程度 一部大規模校は学年を2つに分け実施 一部小規模校は学年部(2学年)で実施 | 基本的に学年ごと男女別 40名程度 2クラスずつ行う学校が多数 |
| 指導・監視 | 指導者と別にプールサイドからの監視者 授業入替等により人員確保(一部学校では管理職含) | 指導者及び支援者がプールサイドから指導・監視 |
| 管理 | 濾過器操作 残留塩素濃度、Ph確認・管理 プール掃除(全校) | 濾過器操作 残留塩素濃度、Ph確認・管理 プール掃除(水泳部があれば水泳部) |
| 更衣 | 各学年2教室を男女別使用が基本 | プール更衣室使用 |
| 着衣泳 | 民間ボランティア活用17校 | |
| 救急法講習 | プール実施前に研修を受講 | |

課題

感染症・気象(雷・暑さ・豪雨)対策

- ・コロナ対策(マスク着用をどこまで・更衣室の密を避ける方法・各場所の消毒・コースの人数制限や対面にするなどの使用法)を講じながらのプール実施が必須。
- ・夏の気温が年々上昇傾向でありゲリラ豪雨も増加。それに伴い、雨天や低気温・低水温に加え、高温や急激な雷雨のため実施を中止する日が増えてきている。

指導・監視等人員確保

- ・救急救命講習会を毎年受講し、大きな責任と緊張感を持った安全管理を行っている。
- ・水難事故防止の為、入水指導者とは別にプールサイドからの監視を必須としている。そのための人員確保が難しい。授業の入れ替えて確保できない場合は管理職も動員している。
- ・プールサイドは高温であり、熱中症をはじめとする見学者の体調管理が難しい。指導・監視で見学者の見守りが手薄のため、別室学習も難しい。

施設の老朽化

- ・濾過器の老朽化により、手動の操作が必要となる学校も出てきており、水質管理が非常に難しくなっている。修繕が必要な学校が多い。
- ・プールの壁面や底のペンキが剥がれてきていて、職員作業で修繕を行う学校もある。

【維持管理費概算】

水道・下水道料金 1,400万円/年
 修繕費 600万円/年
 濾過機、濾材交換 150～200万円/機(約10年)

その他

- ・紫外線や塩素への反応、各アレルギー等、皮膚ケアを必要とする個別対応が必要な児童生徒が増加。